

竹炭燃焼炉として推進してきた「炭乃助」は現在更に改善を重ねているがもう一つ別の燃焼炉を開発中である。これは炉の組み立てに時間がかかる難点はあるが定位置に固定して何度も使う場合には問題が無いので「商品名DECA」（でか）：大きいの意 として推進している。設計がすんで資材が揃ったので千葉県長南町鵜谷の竹林にて燃焼実験を行い問題点のチェックを行った。

（１）日時：平成28年7月14日（木）9：00～15：00

（２）実験参加者：竹もりの里 鹿嶋理事長以下3名、K-BETS 西沢・篠崎・渡辺・福島の4名、 いすみ地区在住のボランティア2名 合計の9人。

竹炭の製造は秋から春先にかけて、涼しい時期に行ってきたが今回は突発的な実験であったために真夏の炭焼きになり汗だくで1日頑張った。実験はDECAの他「炭乃助」についても何点かの改善点を実施してそのチェックを行った。

以下 写真と動画で状況を報告する。



写真1・2 コルゲート板を円形に加工しカットしたものを現地で組み立てる。この組み立てにボルトとナットで締める作業に時間がかかる。炉の直径は2m。



写真3 焼き上がった後の水冷。



写真4 実験に参加した人々

実験結果の総括

(1) この実験をやって得た竹炭の数量

炭乃助 12 袋 (720 リットル)

DECA 15 袋 (900 リットル)

カウント外として参加者持ち帰り分がこれにプラス

炭乃助で燃した竹は青竹が多くその分ハンディーあり。

(2) DECAの評価

燃焼上の大きな問題は発生しなかった。DECAは箱型に比べて燃焼が遅れるコーナー部分が無いため燃焼性能としては優れている。定置式燃焼炉として期待できる。